



皆さん、こんにちは！

小教区は私たちの共同体の単位であり、私たちの信仰を表し、兄弟愛の精神を育み、連帯を示します。今月、教皇フランシスコは、教会におけるこの一致の交わりのために祈るよう、私たちに求めています。

信仰は、祈ることだけでなく、兄弟愛と連帯を生きる道に取り組むことです。同窓生やドン・ボスコの友はさまざまな宗教に所属していますが、私たちサレジオのアイデンティティは、皆が兄弟愛と連帯のうちに一つになることを私たちに求めるのです。いのち、真理、自由という私たちの大切にしている価値は、正義の追求、兄弟愛の促進、連帯の実現のうちに表現されます。

私たちはドン・ボスコへの愛と感謝によって、キリスト者としてのこれらの価値を調和のうちに、多宗教的な場で、類ない、豊かさを与えるかたちで、もたらすことができるのです。



■ サレジオ同窓会世界連合
会長 ブライアン・マグロ

宣教志願院？



第一次大戦後、カトリック教会は宣教のリバイバルの時期を経験しました。そのような空気の中、**福者フィリッポ・リナルディ**は、宣教に取り組むサレジオの各会を活気づけるため、雑誌「Gioventù Missionaria 宣教青年」を創刊しました。そしてついに、1922年、未来の海外派遣宣教師の養成を目的とする**最初の志願院を、イヴレアに創設**しました。その後、まもなく、イタリア、スペイン、英国、フランスに、さらに宣教志願院が創設されました。その構想は、宣教師志願者が中等教育を終えると宣教地へ派遣され、修練期を開始、現地のサレジオ会のもとで初期養成を受ける、というものでした。

サレジオ会の現在の養成過程では、**修練期後のポストノビス**の時期がカリスマにおけるアイデンティティを深める養成の段階になります。したがってこの時期は、宣教師の道を真剣に識別するのに最も適した養成の段階であり、また最も生き生きとした、惜しみなく宣教に赴く用意のある姿勢がサレジオ会員のうちに見られる段階です。会員は、霊的指導者、院長、管区長と話し合ったうえで、宣教師として派遣される用意のあることを申し出る手紙を総長に書くことができます。

今日、サレジオ会志願院は、青少年司牧と初期養成を結ぶ自然な橋と考えられています。サレジオ会志願院にはさまざまなタイプがありますが（例えば、大学生のため、あるいは中・高校生のためなど）、その第一の目的は、神がサレジオ会の生き方へ呼んでくださっているのか、**識別を行う望みと意欲**を示す若者と共に歩むことです。それは、そのように最初に心をひきつけられたことが本当に神からの呼びかけなのか、それを受け取るのにふさわしい条件が自分にあるのか、確認し、理解する道のりを進んで歩もうとする若者たちです。

志願生は、仲間や同伴チームと生活する堅固な共同体生活を通して、サレジオの青少年霊性の生きた体験、サレジオの使徒的活動への参加、特に宣教の現場への参加を通して、人として、キリスト者として成長するために、**この識別の過程を共に歩んでもらいます**。このようにして、志願生は、神が自分をお呼んでおられるのはサレジオ会員としての道なのか、あるいはほかの道なのか、見いだすように助けられ、その方向へ導かれます。

したがって、今日、宣教志願院の存在に増して大切なのは、すべての志願院に**意味深い宣教体験**があることです。特に、何らかの形で宣教ボランティア活動に参加することです！

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと
分かち合いの
ために

- 神の呼びかけを見いだしたいという望みと意欲を、どうすれば若者たちのうちに呼び覚ますことができるだろうか？
- どうすれば、教育司牧共同体のうちに高い宣教への意識を生み出すことができるだろうか？



モルドバ — 日々の生活における宣教者



アンドレア神父様、今月のテーマは小教区です。チシナウの小教区の司牧活動で、特にサレジオ会らしい側面はありますか？

私たちの共同体は、ここチシナウの町の教会と、去年から、チシナウから28キロ離れたところにある小さな村、クレトアイアの教会、二つの小教区を任されています。二つの小教区には大きな違いがあります。チシナウの教会は都市のダイナミズムを経験します。特に一人ひとりの顔が見えにくくなる非人格化と帰属意識の希薄化です。一方、クレトアイアの教会は、小さな村なので、親密にまわっています。住人は皆、親戚同士です。ある意味でエキュメニカルだと言えます。宗派間の結婚が多いからです。カトリックと正教会、両方の信徒が教会に来ています。チシナウでは、司牧活動の中にサレジオ会固有のことはあまりないと言えるでしょう。教会の若者や子どもたちの世話を少ない人数で行わなければならないためです。一方、クレトアイアでは、司牧活動にサレジオ的な特質があるのは、福者エドムンド・ボジヤノフスキーによって創立された修道女会の協力に基づくものです。シスターたちはこの20年ほど、村で唯一の幼稚園を運営しています。

教皇フランシスコは、教会のすべての司牧活動は宣教的でなければならないと言っています。神父様たちの小教区にはその側面がありますか？

ここモルドバでは、宣教活動と言うとき、改宗の押しつけだと非難されるリスクを避けるため、気をつけなければなりません。ここは実際、正教が多数派の国であり、したがってキリスト教国です。正教の人々は、モルドバが宣教地、すなわちキリストを宣べ伝える第一次福音宣教の地であるとは言われたくないのです。また、長年ソビエト政権下にあったものの、再宣教を行うべき国でもありません。私はよく教会の信徒に言っています、私たち一人ひとりが日々の生活の中で宣教者なのだと。私たちはどこにいても、キリストの良いあかし人となるよう呼ばれているからです。日々を過ごす中で私たちが会える人々の人生に、キリストがお入りになることができるように。その人たちがカトリック教会に入信しなければならないということでは、必ずしもないのです。

モルドバのサレジオ会にとって、大きな挑戦は何だと思えますか？

モルドバでは、特に私たちのようなまだ若い事業にとり（2007年に開設）、多くの挑戦があります。首都であるにもかかわらず、ヨーロッパへの移民の流れが強いにもかかわらず、一般の人々だけでなく、正教会の聖職者や行政当局者の間にもカトリックに対するあからさまな不信がひしひしと感じられます。私たちの意向の善意に対して、自らの利益を求めず若者を助けたいという私たちの望みに対して絶えず向けられる疑いには、本当にがっかりさせられるのです。



アンドレア・バラン神父, SDB

イタリア、カステルフランコ・ヴェネト生まれ。ローマのUPS（教皇庁立サレジオ大学）、トリノ、アイルランド、ダブリンのオール・ハロウズ・カレッジで学ぶ。

2002年から2017年にかけて、ロシア、ガッチーナの「ドン・ボスコ」職業訓練校で働く。ローマのサン・カリスト共同体で3年間過ごした後、モルドバ共和国のチシナウに移り、今日に至る。



世界の人口: カトリック、司祭、宣教地

フォーラム	大陸	人口	カトリック信徒	人口におけるカトリックの割合	司祭1人当たりの信徒数	常駐司祭のいない宣教拠点
	アフリカ	13億5,000万	2億5,900万	19.2%	26,000	70,200
	アメリカ	11億	6億5,000万	59.1%	8,350	20,100
	アジア	46億	1億5,100万	3.3%	43,450	36,900
	ヨーロッパ	7億3,000万	2億8,500万	39.1%	4,350	430
	オセアニア	4,300万	1,100万	25.6%	9,150	870
	合計	78億2,300万	13億4,600万	17.2%	14,950	128,500



出典: Agenzia Fides

2月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

小教区のために

モルドバの小教区の人々の心と願いが、助けを必要とする人々にいつも開かれていますように。

小教区が、交わりを中心としながら、ますます信仰と兄弟愛の共同体、最も助けを必要とする人を温かく迎える共同体となりますように、祈りましょう。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

モルドバの
ために

